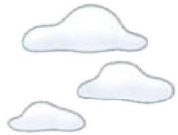
中学生の課題図書（2021年）



『ウィズ・ユー』　濱野　京子／作　（くもん出版）

高校受験を控える中、優秀な兄とよく比較され悶々と日々を送る悠人。秋半ばのある夜、悠人はランニング途中の公園でブランコに座っていた少女に声をかける。彼女は病気の母を支え、家事をする「ヤングケアラー」だった。

『アーニャは、きっと来る』　マイケル・モーパーゴ／作
佐藤　見果夢／訳　（評論社）

第二次世界大戦下のフランス山間部の村。羊飼いの少年ジョーは、ある日ナチスの迫害を受けるユダヤ人の子どもたちと出会い、彼らの亡命に協力することになる。ドイツ兵が駐留している中、村人全員を巻き込んだ大逃亡劇。ジョー、そしてユダヤの人たちの行方は・・・。

『牧野富太郎』　清水　洋美／文　里見　和彦／絵　（汐文社）

蝶ネクタイに丸めがねが印象的な植物学者・牧野富太郎。学歴が小学２年で中退ながら、天下の東京大学に出入りし、集めた標本４０万点、名前をつけた植物が１５００種類。「日本の植物学の父」とまで言われるようになりました。

2020年　『天使のにもつ』　いとう　みく／著　丹下　京子／絵　（童心社）

『１１番目の取引』　アリッサ・ホリングスワース／作
もりうち　すみこ／訳　（鈴木出版）

『平和のバトン』　弓狩　匡純／著　（くもん出版）

2019年　『星の旅人』　小前　亮／著　（小峰書店）

『ある晴れた夏の朝』　小手鞠　るい／著　（偕成社）

『サイド・トラック』　ダイアナ・ハーモン・アシャー／作
武富　博子／訳　（評論社）

高校生の課題図書（2021年）

『水を縫う』　寺地　はるな／著　（集英社）

刺繍が好きな弟とかわいいものが苦手な姉、良き父親・良き母親になることができなかった父と母。どこか普通らしからぬ６人の家族の、６人にとって普通の物語。世の中の普通や当たり前とは・・・。

『兄の名は、ジェシカ』　ジョン・ボイン／著　原田　勝／訳
（あすなろ書房）

サムがもっとも尊敬している４歳年上の兄ジェイソン。小さい時から面倒見がよくて、サッカー部のキャプテンで、学校ではみんなの人気者。その兄がある日、家族の前で「トランスジェンダー」であることを明かし・・・。

『科学者になりたい君へ』　佐藤　勝彦／著　（河出書房新社）

大学で何を学ぶのか、研究のやり方など、あまり語られない科学者への道について、「インフレーション理論」を提唱した宇宙物理学者・佐藤勝彦が、その体験をもとに語る一冊。科学者を目指す人はもちろん、科学に興味がない人も、この機に科学のおもしろさに触れてみてはいかが？

2020年　『廉太郎ノオト』　谷津　矢車／著　（中央公論新社）

『フラミンゴボーイ』　マイケル・モーパーゴ／作
杉田　七重／訳　（小学館）

『キャパとゲルダ』　マーク・アロンソン／著　マリナ・ブドーズ／著
原田　勝／訳　（あすなろ書房）

2019年　『この川のむこうに君がいる』　濱野　京子／作　（理論社）

『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ』　アンジー・トーマス／作
服部　理佳／訳　（岩崎書店）

『ヒマラヤに学校をつくる』　吉岡　大祐／著　（旬報社）